国際センター「土木技術者の国際化実践小委員会」の委員公募

当小委員会は、2022 年度会長特別プロジェクトの一環として活動を開始し、以後、国際的に通用する土木技術者の育成を目的として、世界の最新動向の調査、研究に取り組んでいます。2027 年 1 月からの第 5 期の活動開始にあたり、第 4 期からの継続メンバーに加えて新たなメンバーを増員するために、本小委員会にご参加いただける方を公募します。奮ってご参加ください。

本小委員会の目的および内容は以下の通りです。

１．小委員会

・国際センター「土木技術者の国際化実践小委員会」※

※　これまでの活動内容の詳細は、当小委員会の HP（下記）をご参照ください。

小委員会 HP：https://committees.jsce.or.jp/kokusai14/

【参考】過去の活動・WG の例

インフラメンテナンスの海外展開	主に道路橋のメンテナンス技術の海外展開を目標に、技術的のみならず、対象地域固有の諸条件（発注形態、管理実態、関連技術等）や課題を調査
海峡横断プロジェクトの基礎検討	国内における海峡横断プロジェクトを題材に、新しい技術（SFTB：浮体式水中管体橋）と事業評価方法（GHG 排出の価値換算）を取り入れた中長期視点での実現性を検討
GHG 排出量を考慮した道路橋の試設計	欧州における GHG 排出量の算定方式を取り入れて道路橋を試設計、研究成果を国際会議で発表
先輩技術者へのインタビュー	海外で活躍する先輩技術者との意見交換
海外調査団の派遣	国際会議への参加と現地視察を自主計画し実行（イスタンブール、UK、ベルギー、ノルウェー）
土木学会海外分会との交流	英国、インドネシア、台湾の分会メンバーとの交流を通じて、諸外国の土木技術者の活躍の様子をインタビュー

２．背景と目的

当小委員会では、かねてから課題とされてきた土木技術者のグローバル化を実現することを目的とし、個人や個社の取り組みを超えて多種多様な人材が集い、切磋琢磨しながら自己啓発する場や機会を提供してきました。そのメニューとして、従来の文献やネット上の情報収集、分析に留まらず、国際会議への調査団の派遣、有識者へのヒアリングを通じたネットワーキング、それらの情報収集に基づく活発なディスカッション等を委員自ら実践しています。ここで、「国際的に活躍できること」は、「自ら考え、創造できること」と同義であると捉え、将来、国内外問わず、魅力と責任ある土木業界を担う人材の育成を目的としています。

３．対象者

以下のいずれかとし、土木学会の会員・非会員は問わず、インフラ海外展開に関連する土木以外の業界（建築、法務、ファイナンス、製造、サービス等）も含みます。

(1)自己実践型　：20 名程度

インフラ海外展開に関心を有し自ら国際的に通用する技術者になりたいという意志を持つ方。また活躍の場として国内外に拘らなくとも将来グローバルに通用する技術力や創造力を身に付けたい方。いずれも、各自が関心を持つ検討テーマ（参考資料を参照）を有し、当委員会内においてはそれに関連する WG に所属して、仲間と一緒に取り組める方。学生の方の参加も歓迎します。

(2)育成支援型　：10 名程度

インフラ海外展開の経験または関心を有する方々。それらの経験や知見を活かして WG 活動を支援し、上記「自己実践型」メンバーの成長を支援いただける方々。

４．開催方法

- 小委員会は概ね 1 回/2 月の頻度で開催する予定。開催形式は土木学会での会議（集合形式）を基本とします。ただし、遠方からの参加等に配慮して Web 会議も補足的に併用します。また、参加メンバーの勤務先等も踏まえて、地方開催もあり得ます。
- WG 活動は、各 WG の判断の下、活動内容や状況に応じて開催します。

５．活動期間

- 2027 年（令和 9 年）1 月～2028 年（令和 10 年）5 月※

※　当面は活動期間を 1 年間とするが、本人の意思で継続参加も可能。

６．費用負担

・　自己負担

※　委員会への参加、セミナーや海外視察等のイベントへの参加も自己負担とします。

７．応募方法

・　①氏名、②所属、③連絡先（E-mail 及び電話）、④**関心のあるテーマ（委員会に参加して取り組みたいこと）**を自由書式（メールにベタ打ちで可）にて記載の上、下記の応募先まで E-mail にて連絡して下さい。その際、件名は「土木技術者の国際化実践小委員会への参加応募」とご記入下さい。

・　期限　：2026 年 12 月 25 日（金）

８．問合先・応募先

・　幹事長　：水野正昭　（mizuno-masaaki@hanwa.co.jp） 阪和興業株式会社

以上

（参考）検討対象として想定されるテーマの例

以下は、現時点で当小委員会が想定する検討テーマの一例です。これらのうち、各自が関心のあるテーマのWG に参加し、メンバーと共同で活動いただきます。また、以下に無いテーマでも応募者からの自主的な提案を歓迎しますので、応募時にご記入下さい。

(1) 橋梁・構造に関する技術のグローバル化

- IABSE（国際構造工学会）等関連国際会議への海外調査団の派遣
- 関連団体への調査対象の拡大（fib、IABMAS、ICSBOC 等）
- 関連技術（カーボンニュートラル、ストック＆リユース等）の世界動向の調査・分析　他

(2) 道路構造物に対する保全技術

- 世界におけるメンテナンスの現状（ニーズ、対応状況等）の調査・分析
- メンテナンス技術の海外展開の実態に関する調査・分析及び海外展開の手引きの作成

(3) 海峡横断プロジェクトの基礎検討

- 大規模なプロジェクト全体を対象とした事業評価（経済、社会、環境等の総合した事業評価）
- カーボンニュートラル等を考慮したこれからの整備事業の事業評価の検討
- 新構造（SFTB：Submerged Floating Tube Bridge）の適用の検討
- 海峡横断プロジェクトに関するノルウェー道路局との協働（共同セミナーの開催等）

(4) 今後のグローバル化で取り組むべき技術

（※　応募者が関心を有するテーマを新たに提案していただき、主体的に取り組むテーマ）

- ICT（DX、スマートシティ）　・ 環境・防災（森林保全、ダム再生、気候変動対策、グリーンインフラ）
- エネルギー、カーボンニュートラル（再生可能エネルギー、MaaS）　他

(5) 今後のプロジェクト創成のために取り組むべき課題や視点

（※　技術に限らず、新たな制度や周辺分野（建築、法務、金融等）も取り込んだ視点でのテーマ）

- 土木と建築の融合（再開発、スマートシティ、TOD）　・ NGO 活動としてのインフラ整備プロジェクト
- 他国の海外展開状況（欧米、中韓）　・ アフリカ、中南米における海外展開　他

(6) 土木学会の海外分会との交流

以上